

(別記)

2019 年度大津町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町では、主食用米の作付面積が年々減少しており、平成29年度は全耕地面積に占める主食用米作付面積の割合が1割強であった。なお、平成30年度の作付目安は100haであったが、作付実績は95.7haと下回っており、今後もこの傾向が継続することが想定される。

このような中、WCS用稲、飼料用米などの転作作物に転換を促すことで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、管理が困難な農地や労働力不足が懸念されるため、農地や作業を補完する組織の育成と充実を推進することで、持続性の高い農業を構築し、農業所得の向上及び水田の有効活用を図る必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

町内の約800ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、特に飼料用米、大豆を転作作物の主体として位置付け、生産コストの効率化等に取り組みながら、魅力ある産地づくりを推進する。

また、二毛作・耕畜連携を推進することで、水田のフル活用及び地力向上と低コスト化を図る。

(1) 主食用米

需要に応じた米の生産・販売の推進を基本として、売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。また、集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行い、ブランド化による安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を今後の転作作物の中心作物に位置づける。飼料用米の生産拡大にあたっては、産地交付金を活用した団地化の推進を図り、5年後には、地域の水田の約1割での導入を目指す。

産地交付金を活用して、飼料用米の作付けを推進し、地域の耕種農家と畜産農家との連携による畜産物のブランド化を進めるとともに飼料用米収穫後のワラ利用の取組も推進することで飼料用米の長期契約の定着を目指す。なお、法人によるTMR事業等の取組が開始されるため、飼料用米の作付けを促すことが考えられる。

さらに、団地化による更なる低コスト化生産を推進するため、1.5ha以上団地化した取組については単価を高く設定することとする。

イ 米粉用米

パン用原料として、需要に合わせた作付けを行っていく。

ウ 新市場開拓用米

集落説明会や法人経営会議等で取り組みの周知を図る。

エ WCS 用稲

主食用米の需給減が見込まれる中、WCS用稲を転作作物の中心に位置付ける。また、産地交付金を活用し、耕種農家と畜産農家との資源循環の取組を推進することで水田からの良質粗飼料生産及び畜産農家のコスト低減を図る。

オ 加工用米

集落説明会や法人経営会議等で取り組みの周知を図る。

カ 備蓄米

集落説明会や法人経営会議等で取り組みの周知を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

団地化及びブロックローテーションを継続し、5年後においても、現行の麦・大豆の作付面積を維持する。

大豆については、団地化による更なる低コスト化生産を推進するため、1ha以上の団地化面積要件を1.5haに拡大し、作業効率向上を狙った取組として単価も高く設定することとし、さらなる集積を図っていく。

また、麦と飼料作物については、産地交付金を活用し二毛作の取組を支援し作付面積の維持を図る。

(4) そば、なたね

実需に応じて、産地交付金を活用して二毛作も含めた作付け支援を行いながら、作付面積を維持する。また、排水対策を実施し、収量向上の取組みに対する支援を行う。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

産地交付金における高収益作物（野菜等）への支援を行いながら、今後作付面積の維持・拡大を図る。特に、「人参」、「里芋」、「花木類」、「甘藷」、「メロン」、「ネギ」、「大根」、「茶」、「たばこ」を振興品目として位置づけする。

(6) 畑地化の推進

集落説明会や法人経営会議等で取り組みの周知を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	95.7ha 528.2t	95.0ha 521.5t	100.0ha 549.0t
飼料用米	64.9	70.0	70.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	204.2	210.0	215.0
加工用米	0.0	0.0	0.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	347.1	350.0	350.0
大豆	179.2	180.0	185.0
飼料作物	143.1	140.0	140.0
そば	0.0	0.0	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物			
野菜	51.4	55.0	55.0
花き・花木	5.8	6.0	6.0
果樹	0.5	0.5	0.5
その他	3.8	4.0	4.0

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は

549kg/10a

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2018年度	2020年度
1	飼料用米 （基幹作物）	団地化加算 （飼料用米）（基幹）	団地化面積	51 h a	70 h a
			団地化率	79%	95%
2	大豆 （基幹作物）	団地化加算 （大豆）（基幹）	団地化面積	146 h a	165 h a
			10 a 当たり収量	180 k g	175 k g
3	麦 加工用米 飼料作物 そば なたね （二毛作）	二毛作助成 （二毛作）	二毛作面積	430 h a	(430 h a) 450 h a
			二毛作取組率	64%	(63%) 64%
4	飼料用米 （基幹作）	ワラ利用の取組 （耕畜連携・基幹）	取組面積	66 h a	(75 h a) 80 h a
			取組実施率	100%	100%
5	WCS用稲 （基幹作）	資源循環の取組 （耕畜連携・基幹）	取組面積	204 h a	215 h a
			取組実施率	100%	100%
6	野菜、花き・花木 果樹、その他作物 （茶・たばこ等）	地域振興作物助成 （基幹）	対象面積	57 h a	70 h a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）